



平成 29 年度
地域コーディネーター養成講座
ぎのわん地域づくり塾 2017
報告書

平成 30 年 3 月

目次

第1章 ぎのわん地域づくり塾概要	1
(1) ぎのわん地域づくり塾とは	
(2) プログラムの流れ (全7回+スキルアップ講座)	
(3) 第2期塾生の概要	
<塾生の声>	
(4) モデル地区：宇地泊区の現況	
<主催者からみた地域づくり塾>	
佐喜眞淳 市長 (塾長 宜野湾市)	
多和田眞光 会長 (宜野湾市社会福祉協議会)	
第2章 ぎのわん地域づくり塾の講義内容	9
(1) 第1回<公開講座> ひとを育む地域づくりを進めるために ～コーディネーターの役割を描く～	
(2) 第2回 地域づくり実践の現場から学ぶ ～宜野湾市宇地泊区の地域課題と実践～	
(3) スキルアップ講座 「話し合う」ためのスキル ～ファシリテーション～	
(4) 第3回 宇地泊区の地域課題の「現象」と「原因」を考える	
(5) 第4回 地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～	
(6) 第5回 フィールドワーク ～まちあるき・地域インタビュー実践～	
(7) 第6回 地域の課題解決の企画づくり ～5グループの中間発表～	
(8) 第7回 宇地泊区に向けた最終発表・修了式	
<企画発表に対する宇地泊区住民のコメント>	
<アドバイザーとしてみた地域づくり塾>	
櫻井常矢 教授 (高崎経済大学 地域政策学部)	
<後援者からみた地域づくり塾>	
富永千尋 氏 (沖縄県地域振興協会 専務理事兼事務局長)	
第3章 宇地泊区の困りごとに応じた企画提案	19
(1) 高齢者と地域の関わり ーチームなびいー	
(2) 子育てサロンを地域づくりの起爆剤に！ ーチーム・それでも人しか愛せないー	
(3) 料理で繋げる全世代・地域交流の懸け橋 ーオールジェネレーションー	

(4) 新しく移り住んだ子育て世代が地域とつながるには…? ーぎのわんキャンディーズー

(5) イケおじが宇地泊を熱くする ーやっぱりねこが好きー

<モデル地区の自治会長としてみた地域づくり塾>

富名腰義政 会長 (宇地泊区自治会)

<講師からみた地域づくり塾>

宮道喜一 氏 (まちなか研究所わくわく 事務局長)

第4章 塾生アンケートまとめ 31

(1) アンケート概要

(2) 各設問項目の結果

第5章 総括 ～第2期の評価と今後に向けて～ 39

(1) ふりかえりミーティング開催概要とまとめ

(2) 塾生アンケートに記載にされていた要望一覧

(3) 次年度に向けての塾プログラム改善ポイントの提案

資料編

資料1 ぎのわん地域づくり塾 2017 募集要項チラシ

資料2 ぎのわん地域づくり塾 2017 公開講座チラシ

資料3 櫻井常矢氏 (高崎経済大学教授) の講義資料 (第1回講義資料)

資料4 櫻井常矢氏 (高崎経済大学教授) の講義資料 (第4回講義資料)

資料5 話し合いの手法～ファシリテーション～ (スキルアップ講座資料)

資料6 塾生各グループの企画提案書

資料7 ニュースレター<vol.1～8>

資料8 塾生アンケート結果

資料9 新聞記事 (琉球新報)

資料10 市報ぎのわん平成29年6月号P6

資料11 平成29年度ぎのわん地域づくり塾申込書

資料12 地域の方へ協力依頼文

資料13 最終発表案内チラシ

資料14 配布資料

第1章

ぎのわん地域づくり塾 概要

第1章 ぎのわん地域づくり塾概要

(1) ぎのわん地域づくり塾とは

これからの宜野湾市においては、様々な分野で「一つの組織、団体では対応できない、複雑化した課題」が増えてくると考えられる。そのため、地域住民と共に地域課題を共有し、互いに得意とすることを持ち寄り、一緒に取り組むことで、複雑化した地域課題を解決する「協働による地域づくり」が求められている。

「協働による地域づくり」をすすめるためには、地域づくりに必要な地域資源を知り、多様な人や力、資源をつなぎ合わせて、「ひとりの困りごと」を「地域の困りごと」として、解決の動きをつくりだす地域コーディネーター（つなぎ役）の存在が重要となる。そこで、宜野湾市では、地域づくり活動を行い、支援するための理解や知識を持った、コーディネーターの力を磨き合う場として「地域コーディネーター養成講座 ぎのわん地域づくり塾」（以下、「ぎのわん地域づくり塾」）を、平成28年度より行っており、今年度、第2期を開催した。

【ぎのわん地域づくり塾の目的】

地域づくりのプロセスを大切にし、多様な資源をつなぎ合わせながら、地域課題の解決の動きをつくりだす「地域コーディネーター」を育成すること。

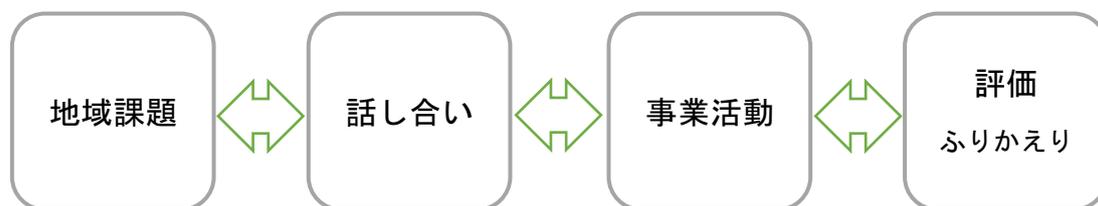


図 地域コーディネーターが住民と行う、地域づくりのプロセス

ぎのわん地域づくり塾では、講義、フィールドワーク、ゼミを通じて、モデル地区（宜野湾市宇地泊区）の地域課題をとらえ、解決のための企画提案を行う過程から、地域コーディネーターの育成を行った。



図 地域コーディネーター育成プロセス

(2) プログラムの流れ (全7回+スキルアップ講座)

ぎのわん地域づくり塾 2017 は平成 29 年 7 月 9 日の公開講座から始まり、11 月 23 日の修了式までの約 4 ヶ月間に渡って開催した(今年度は台風の影響により、修了式予定日の 10 月 28 日から延期した)。会場は、宇地泊区公民館を拠点として開催し、公開講座と中間発表は沖縄国際大学で行った。第 2 回から第 7 回までの講義には、平均して約 23 名が継続的に受講した。

表 ぎのわん地域づくり塾 2017 のプログラム概要

講義	日程	講義名	会場	出席者
第 1 回	7/9 (日) 14:00-17:00	公開講座 ひとを育む地域づくりを進めるために ～コーディネーターの役割を描く～ (講師：高崎経済大学 櫻井常矢教授)	沖縄国際大学	54 名
第 2 回	7/24 (月) 19:00-21:30	地域づくり実践の現場から学ぶ ～宜野湾市宇地泊区の地域課題と実践～ 情報提供 富名腰義政 氏 (宇地泊区自治会長) 高良謙二 氏 (民生委員・児童委員)	宇地泊区公民館	28 名
スキルアップ講座	8/6 (日) 9:00-15:30	「話し合う」ためのスキル ～ファシリテーション～	宜野湾市社会 福祉センター	31 名
第 3 回	8/21 (月) 19:00-21:30	宇地泊区の地域課題の 「現象」と「原因」を考える	宇地泊区公民館	23 名
第 4 回	8/31 (月) 19:00-21:30	地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～ (講師：高崎経済大学 櫻井常矢教授)	宇地泊区公民館	22 名
第 5 回	9/9 (土) 9:00-15:30	フィールドワーク ～まちあるき・地域インタビュー実践～	宇地泊区公民館	21 名 宇地泊区民 17 名
第 6 回	10/7 (土) 9:00-15:30	地域の課題解決の企画づくり 5 グループの中間発表	沖縄国際大学	20 名
第 7 回	11/23 (木) 9:00-16:00	宇地泊区に向けた最終発表 ～修了式～	宇地泊区公民館	22 名 一般参加者： 22 名

(3) 第2期塾生の概要

1) 塾生の所属

第2期塾生として、企画立案グループに所属した塾生は30名（女性：22名、男性：8名）であった。その内、修了した塾生（修了要件：全8回中4回以上の出席）は25名（女性：19名、男性：6名）であった。塾生の所属として最も多かったのは自治会関係者であり、市役所、企業、NPO法人、民生委員等の多様な立場からの参加を得た。また、年代は20代から70代までの方が受講し、50代が6名で最も多く、20代の2名が最小であった。

表 第2期塾生の所属（修了者）

所属	人数(名)	割合(%)
自治会	4	16
市役所	3	12
商工会	3	12
NPO法人	2	8
民生児童委員	2	8
市社会福祉協議会	1	4
大学生	1	4
文化協会	1	4
地域包括支援センター	1	4
公益財団法人	1	4
その他	6	24
合計	25	100

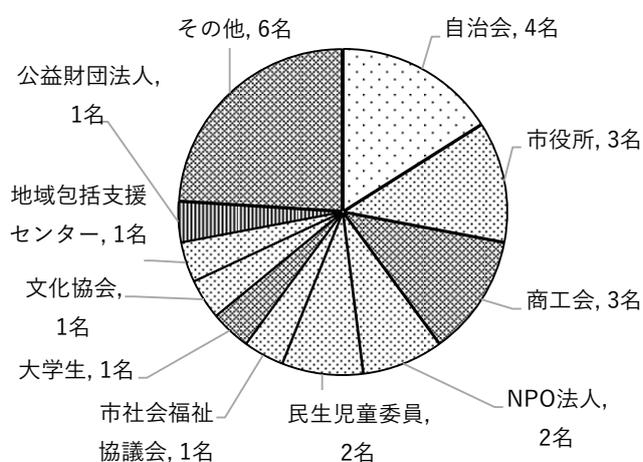


図 第2期塾生の所属（修了者）

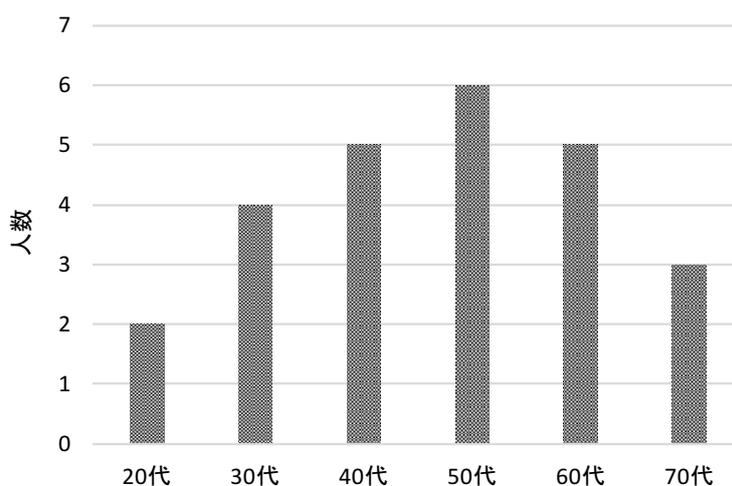


図 第2期塾生の年代分布（修了生）

＜塾生の声＞

塾生の皆さんには、本塾の修了式後にアンケートをご記入いただいた。その中から5名を選び、本塾での学びや得られたことを以下に記載した。

エクスタスティン昇子さん（30代）アメラジアンスクール

「異なる世代・職種・背景の人と協力するための工夫と楽しさ。」「地域の大切さ、地域の課題が社会の課題につながっていること。」など、本当に学ぶことが多い、充実した4ヵ月でした。知識だけではなく、肌で感じるものも多く、ここで得たことは今後、様々な場面でも活かせると思います。グループメンバー、そして気持ちよく学べるように支えて下さった運営の皆さんには感謝です。

安里ひなのさん（20代）琉球大学 学生

参加するまで地域づくりや地域での活動はあまり知らなかったのですが、様々な活動、年代の方と交流することで良い刺激になりました。どうしても上からというか、自治会側からの考えになってしまっているのではないかという悩みがあり、その視点（悩み）はよい学びになったと思います。

前田真顕さん（60代）宜野湾市スポーツ推進委員

住んでいる宇地泊、真志喜地区に誇りと自信を持つことができた。コンベンション・エリアとしての魅力だけではなく、地域住民の開かれた人情の深さに改めて感激しています。また、街歩きをしなければ、生活の実感がわかない。宇地泊のフィールドワークを通して課題解決へのプロセスが見えた気がする。

石川寛敏さん（30代）宜野湾市役所

実際に地域で活動されている方の声が聞けたことは良かった。地域のことを知り、志をもつ方々と出会えたことは今後の財産になると思います。

島袋盛子さん（50代）商工会女性部

コーディネーターは解決する人ではなく、つなげる人。すごく勉強になりました。問題や課題を見つけ出すポイントも以前より早くなっている自分に気づいたり、前よりは質問上手になっています。

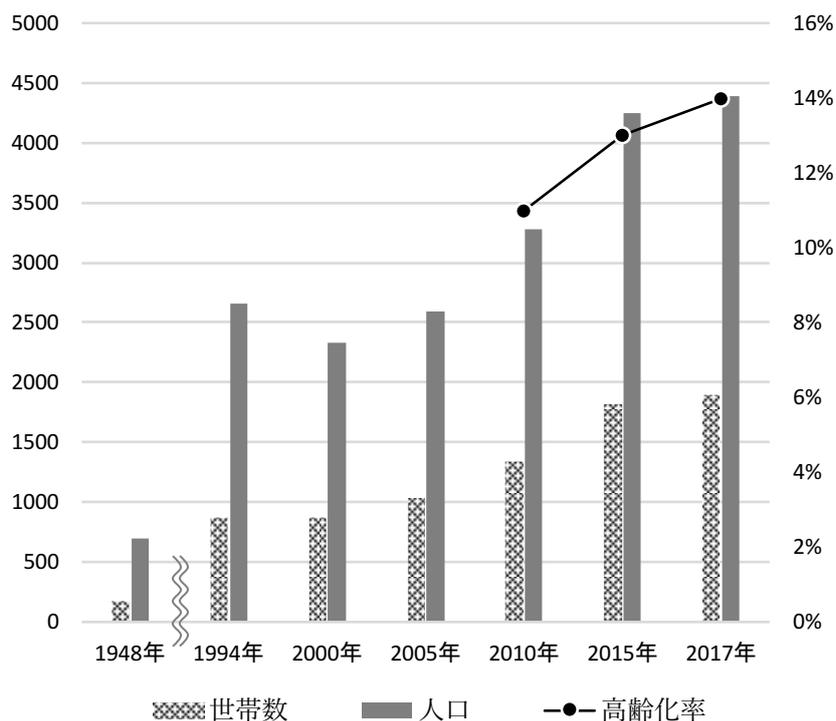


図 宇地泊区の人口、世帯数、高齢化率推移

【富名腰自治会長がみる宇地泊区の困りごと】

ぎのわん地域づくり塾では、宇地泊区に寄り添った企画提案を行うことを目的とし、自治会長である富名腰義政会長に、自治会に寄せられる相談ごとや、不安なことなど、現在の困りごとを挙げていただいた。その困りごとをまとめると、以下の4項目に分類される。

表 富名腰自治会長がみる宇地泊区の困りごと

分野	地域課題 (例)
高齢者の出番づくり	・ 高齢者の公民館への足が遠のいている
若者の地域参加 子育ての悩み	・ 若者・子育て世代の行事参加が少ない ・ 地域外から入ってきた人、戻ってきた人に対して、既存の行事の目的などが伝わっていない ・ 子育てで孤立している親がいる？
環境づくり	・ 公民館前のメインストリートや公園、海などのまちの中の環境 ・ 移動が難しい
防災	・ 海拔が低いエリアでの防災意識・対策 ・ 自主防災組織、訓練への参加

<主催者からみた地域づくり塾>



塾長 宜野湾市
佐喜眞淳 市長

本市では、宜野湾市市民協働基本指針に「誇りと愛着の育まれるまちづくり」を掲げ、協働によるまちづくりを進めているところでございます。その実現のためには、一つの組織、団体では対応できない複雑化した地域課題を、様々な人や組織が関わり解決していくことが求められております。

当塾は、そのような人や組織の「つなぎ役」となる人材の育成を目的として昨年より開催しております。今期の課程を修了した2期生の皆さまにおかれましては、今後も引き続き1期生とともに自主交流会や活動にご参加下さり、協働による地域づくりの担い手、つなぎ手として、ご活躍されることを期待しております。



宜野湾市社会福祉協議会
多和田眞光 会長

本塾は、地域福祉を推進するうえで重要な人材の育成の場であると認識しています。塾生は、プログラムをとおして地域コーディネーターの役割を習得されました。

また、様々な職種、年代との交流や地域活動する住民との出会いなど塾生、宇地泊区の地域住民にとって貴重な時間であったと思います。本塾生の今後の活躍に大いに期待しております。

第2章

ぎのわん地域づくり塾の 講義内容

第2章 ぎのわん地域づくり塾の講義内容

(1) 第1回 <公開講座>ひとを育む地域づくりを進めるために ～コーディネーターの役割を描く～

【ねらい】

- ・ 地域づくりのプロセス、コーディネーターの役割の共有
- ・ 地域づくりの楽しさを知る

○概要

「ぎのわん地域づくり塾 2017」は国吉孝博氏（宜野湾市企画部長）の挨拶から始まった。その後、櫻井常矢教授による、「コーディネーターの役割、地域づくりとは何か？」について講義いただいた。講義の中で、福島県浪江町等での被災者自信が活躍する復興過程を事例に挙げながら、地域づくりのプロセスや地域コーディネーターとはどんな役割を担うのかについてお話しいただいた。

テーマ：ひとを育む地域づくりを進めるために ～コーディネーターの役割を描く～

日時：平成29年7月9日（日）14:00～17:00

会場：沖縄国際大学 3号館 303 教室

講師：櫻井常矢氏（高崎経済大学 地域政策学部 教授）

参加：54名（企業、自治会、NPO・市民団体、学生、社協、行政他）



54名の参加者が地域づくりについて学ぶ



櫻井常矢教授による講演

～ 塾生の声 ～

- ・ 大変面白く勉強させていただくことができた。実践例をたくさん聞くことができたため、自分にもやれるかも、と勇気をもらいました。
- ・ 皆の先頭に立って引っ張っていくのが地域づくりだと思っていたが全く違い、なんだかホッとした。
- ・ コーディネーターは課題解決をするわけではなく、つなげる役割だと感じる事ができた。
- ・ 解決法をすぐに求めてしまうことが多いので、プロセス重視は目から鱗でした。

(2) 第2回 地域づくり実践の現場から学ぶ ～宜野湾市宇地泊区の地域課題と実践～

【ねらい】

- ・ 塾生同士が知り合う
- ・ 全7回のプログラムを理解する
- ・ モデル地区の「宇地泊区」について、「地区の状況」「自治会の取り組み」「地域課題」を知る
- ・ 関心のある「地域課題」を選択し、グループに分かれる

○概要

第1回講座の振り返りから始まり、「部屋の四隅ワーク」によって、塾生同士の共通点からお互いが知り合うきっかけを作った。宇地泊区の歴史や特徴、現在の地域活動、地域課題について富名腰自治会長、高良氏にお話しいただき、宇地泊区の4つの地域課題をご提示いただいた。その後、グループごとに分かれ、取り組みたい地域課題について話し合った。

テーマ：地域づくり実践の現場から学ぶ ～宜野湾市宇地泊区の地域課題と実践～

日時：平成29年7月24日（月）19：00～21：30

会場：宇地泊区公民館 1階ホール

情報提供：富名腰義政氏（宇地泊区自治会長）、高良謙二氏（民生委員・児童委員）

参加：28名（塾生）



富名腰会長と高良氏から宇地泊区の歴史や現状などを聞く



グループ分かれ取り組みたい課題を話し合った

～ 塾生の声 ～

- ・ 区画整理で地域の環境や住民が大きく変化した地域なんだと感じた。
- ・ 宇地泊区は新しい地域ではあるが歴史も深い。若者も多い。
- ・ 青年会が20年も活動していないままだということに驚き、リーダーシップを取れる人材の育成が急務だと気づかされた。
- ・ いろいろな考えの方と話し合うことで、人と人をつなげることができる様になりたい。
- ・ ニーズに基づく企画ができるようになりたい。

(3) スキルアップ講座 「話し合う」ためのスキル ～ファシリテーション～

【ねらい】

- ・ ファシリテーションとは何かを知る
- ・ 話し合いのプロセスや役割について学び、実践する
- ・ 話し合いの議題の重要性と作成方法を学ぶ

○概要

本講座では、2期生の他に1期生や社会福祉協議会の職員も交え、地域づくりのプロセスを推進していく中で基礎となる「話し合う」ためのスキル、ファシリテーションについて学んだ。話し合いのプロセスや役割について学び、グループ毎にミニ会議を行うことで、ファシリテーションを実践しながら学んだ。また、「地域づくり塾の話し合いで大切にしたいこと」を作成し共有した。

テーマ：「話し合う」ためのスキル ～ファシリテーション～

日時：平成29年8月6日（日）9：00～15：30

会場：宜野湾市社会福祉センター 2階ホール

参加：31名



イヤだなーと思う話し合いの場面の共有



ミニ会議により、ファシリテーションを実践

～ 塾生の声 ～

- ・ 役割分担の重要性を知ることができた。
- ・ 発言するだけでなく、「書く」ことも大事。議論を書き出すことで、結論が導きやすくなる。
- ・ 1つの議題ごとの時間配分を決めておくと、充実した会議につながる。
- ・ 一人で考えるより、みんなで考えた方が、よりたくさんアイデアが出る。
- ・ 共通認識を持つことの大切さを学んだ。
- ・ 大きなテーマから、小さな議題を作ることで、意見を出しやすくなる。

(4) 第3回 宇地泊区の地域課題の「現象」と「原因」を考える

【ねらい】

- ・ 宇地泊区の地域情報・活動・地域課題の共有
- ・ グループで取り組むテーマ決め
- ・ 取り組む「地域課題」を、「現象」「原因」に分けて、グループで出し合い拡散し、共有する

○概要

前回の講義で提示された4つの困りごと+自由枠の中から、グループで取り組みたいテーマを決めた。この解決したい宇地泊区の困りごとについて、現象（目に見える困りごと）と原因（引き起こすもと）を付箋に書き出しながら、全グループで共有する時間を持った。また、「対話」から協働に至るプロセスや課題の調べ方等の講義が行われた。

テーマ：宇地泊区の地域課題の「現象」と「原因」を考える

日時：平成29年8月21日（月）19：00～21：30

会場：宇地泊区公民館 1階ホール

参加：23名（塾生）



グループで、取り組む課題の現象と原因を話し合う



全グループで、取り組む課題の現象と原因を共有

～ 塾生の声 ～

- ・ テーマを決める際に意見が割れていたが、話し合うことで、まとめたという自然な流れができ、気持ちが一つになった。
- ・ いきなり手段を考えるのではなく、原因を丁寧に掘り下げていく作業を通して、新たな気づきがあり、深まっていった。
- ・ 同じテーマの課題でも見る視点が違うと、全然違う現象と原因があることに気がついた。
- ・ グループのメンバーが意見を肯定的に受け止めていたので安心して発言ができた。

(5) 第4回 地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～

【ねらい】

- ・ 前回グループで出した様々な何とかしたい「現象」から今回取り組む一つをグループで選ぶ
- ・ 次回のフィールドワークに向けて、どのような情報を得たいのかを明らかにする
地域インタビューでは、誰にどのような質問をするのか。まちあるきでは、どこを歩くのか

○概要

前回出した何とかしたい「現象」(困りごと)から、具体的に取り組みたい課題を「必要とされていること」「自分達が関心あること」が交わる部分を意識して、話し合いをおこなった。そして、インタビュー、まちあるきから得たい情報を書き出して、そこから、「質問リストづくり」、「まちあるきルートづくり」を各グループで作成した。また、櫻井先生から、どのように課題設定すべきか、コメントをいただいた。

テーマ：地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～

日時：平成29年8月31日(木) 19:00～21:30

会場：宇地泊区公民館 1階ホール

講師：櫻井常矢氏(高崎経済大学 地域政策学部 教授)

参加：22名(塾生)



具体的に取り組む宇地泊区の課題を絞り込む



櫻井先生から、課題の設定方法を学ぶ

～ 塾生の声 ～

- ・ 話し合っている間に当事者になってしまって、櫻井先生の話で我に返ることができた。
- ・ 私達の役割はコーディネーターだと認識することが大事だと感じた。
- ・ 皆が”当事者” “だとうまくいかない。
- ・ プロセスが大事。いつのまにか成果や結果を求めていることに気付いた。
- ・ 承認されると、やっていることが楽しくなる。
- ・ 地域活動でも相手を認めることが大切であると知った。

(6) 第5回 フィールドワーク ～まちあるき・地域インタビュー実践～

【ねらい】

- ・ 地域インタビューとまちあるきを通して、各グループで設定した「現象」（困りごと）を深めるための情報を得る
- ・ 次回の企画づくりと中間発表に向けた準備

○概要

宇地泊区公民館にて10時から12時までの2時間は、民生委員・児童委員、老人会、子ども会、婦人会、青年会0B、はつらつクラブ等に所属する宇地泊区民17名の皆さんへのインタビューを行った。宇地泊区の特徴や現在の活動等、地域で暮らす方だから見えていることを教えていただいた。午後からは、各グループで宇地泊区内をまちあるきをして、宇地泊区の町なみの調査や、お宅を訪問して住民の方に話を聞いた。その後は、本日得られた情報を模造紙に書き出し、振り返りを行った。

テーマ：フィールドワーク ～まちあるき・地域インタビュー実践～

日時：平成29年9月9日（土）9：00～15：30

会場：宇地泊区公民館 1階ホール

参加：21名（塾生）、17名（宇地泊区民）



宇地泊区の方々へのインタビュー



宇地泊区をフィールドワーク

～ 塾生の声 ～

- ・ 地地域の中で活動している人々の間でも、お互いの情報が知られていないと感じた。
- ・ 各団体の活動がかなり活発でいろんなイベントがあることが分った。
- ・ 活動をしていることを一部の方にしか伝わっていないのではと感じた。
- ・ グループで話し合ってきた課題の仮説と、実際地域活動に参加している方々の声を聞いて、事実が違っていただけに気付かされた。
- ・ 富名腰会長への信頼の厚さも感じられた。

(7) 第6回 地域の課題解決の企画づくり ～5グループの中間発表～

【ねらい】

- ・ 各グループの最終発表のイメージづくりと内容の作成
- ・ 各グループの現状の発表と「質問」「意見」をもらうことで、足りていない部分を知る

○概要

宇地泊区の課題の解決に向けて、①グループで設定した「地域課題（困りごと）」＋設定した理由、②地域課題（困りごと）の解決方法、③宇地泊区でどうやったら実現できるか（実現する道のり・プロセス）を基に、企画づくりを午前中に行った。午後からは、宇地泊区に貢献する発表を目指し、中間発表を発表時間7分／質疑応答5分で行った。発表を聞く塾生は、発表グループに貢献する「質問」「意見」を付箋紙へ書くことや質問することで、お互いの発表に対して意見を交わした。

テーマ：地域の課題解決の企画づくり ～5グループの中間発表～

日時：平成29年10月7日（土）9：00～15：30

会場：沖縄国際大学 3号館 303教室

参加：20名（塾生）



中間発表前の準備風景



ぎのわんキャンディーズの中間発表風景



～ 塾生の声 ～



- ・ 他のグループから頂いた感想や質問からグループの不足点などを客観的に知ることができた。
- ・ 今後の発表に関しては、初めて聞く方にも分かりやすいようにまとめることが必要。
- ・ 各グループの発表はテーマも角度が違い、非常に面白かった。
- ・ 具体的な数字・事例などが資料としてあるとより分かりやすい。
- ・ 最終発表に向け、今回でた課題を明確にして、もっと内容の濃い提案ができればいい。
- ・ 数値化したり、見える化する必要がある。

(8) 第7回 宇地泊区に向けた最終発表・修了式

【ねらい】

- ・ 宇地泊区に貢献する発表を各グループが行い、宇地泊区の住民に受け止めていただくことで、宜野湾市の協働の地域づくりにつなげる
- ・ 次年度のモデル地区につなげる

○概要

塾生は午前中に発表準備を行い、午後から企画発表会を開始した。宇地泊区をフィールドに4か月間学んだ成果を、宇地泊区の皆さんに向けて、5つのグループが発表した。宇地泊区の方から各発表に対するコメントを頂き、課題の共有を行った。全グループの発表に対するコメントを富名腰自治会長、櫻井常矢氏からいただいた。その後、修了式にて、塾長から挨拶と修了証を塾生に授与し、ぎのわん地域づくり塾を修了した。

テーマ：宇地泊区に向けた最終発表・修了式

日時：平成29年11月23日（木）9：00～16：00

会場：宇地泊区公民館 1階ホール

参加：22名（塾生）、22名（一般参加者）



宇地泊区民の皆さんの前で企画提案発表



修了式、修了証書授与

～ 塾生の声 ～

- ・ 各グループの発表は、それぞれ個性があって、自分が気づかなかった事に気づかされました。
- ・ 悩みが深く、考えることも多く、苦しい時間もありましたが、悩みつづけた結果を皆で共有し、共感し、達成できたことは、この先、大きな心の支えとなることでしょう。
- ・ 様々な世代や職種の人々と交流することで、“協働”について肌で学びました。
- ・ 改めて地域づくりはプロセス（話し合い、地域の声を聞く等）であることに気づかされた。
- ・ 民主主義と課題解決力は遠まわりなもの

＜企画発表に対する宇地泊区住民のコメント＞

各グループの最終発表後に、発表に対する感想を宇地泊区の皆さんにお聞きした。



子育てサロン
関係者

これから子育てサロンをしていくには良いことだと思う。さらに、当事者の方達も企画者の中に加え、自分達が楽しめることを考えてもらったら、今の企画者達も盛り上がってくると思います。提案に対して、私も賛成で、協力したいと思います。



宇地泊区自治
会 書記

一番先に子ども会ができるのは、ブログ、SNS などの情報発信はすぐに取り組みができるのかなと思いました。今後、子ども会が集まる機会があるので、お父さん、お母さんに、この提案どうですか、と伝えていきたいと思っています。



地主会 会長

皆さまの熱い発表に、心から感動しております。地方創生の原点は地域にあると思います。今後も、皆さんと一緒に力を合わせていきたいと思っています。



青年会 OB

今回提案された3世代交流で、まとまる気配を感じました。子ども達にバトンを渡せるように、発表いただいた内容も参考に、進めていきたいと思っています。



老人会参加者

聞いたことない話で、素晴らしい発表でした。今日初めて参加しましたが、こんなに素晴らしい集まりとは思っていませんでした。

表 企画発表一覧

企画タイトル	グループ名
高齢者と地域の関わり	チームなびい
子育てサロンを地域づくりの起爆剤に！	チーム・それでも人しか愛せない
料理で繋げる全世代・地域交流の懸け橋	オールジェネレーション
新しく移り住んだ子育て世代が地域とつながるには…？	ぎのわんキャンディーズ
イケおじが宇地泊を熱くする	やっぱりねこが好き

<アドバイザーとしてみた地域づくり塾>



高崎経済大学 域政策学部
櫻井常矢 教授

一層の高齢化が進む地域社会では、閉ざされた自治会や団体活動ではなく、他の地域・団体との「連携・協働」を通じて多様な知恵や工夫を受け入れる外に開かれた地域づくりが求められます。

塾生の皆さんの力が発揮されるのはまさにここからです。この塾での出会いを新たなネットワークとして、ぜひこれから一緒に頑張ってください。

<後援者からみた地域づくり塾>



沖縄県地域振興協会
専務理事兼事務局長
富永千尋 氏

当協会の助成金を活用していただき感謝いたします。塾に参加させていただきましたが、よくコーディネートされた実践型のクラスが素晴らしかったです。自治会が元気になる取り組みを塾に参加する人たちが提案するのは先進的な取り組みだと思います。

関係者のネットワークが充実し、提案が実現していくことを楽しみにしています。

第3章

宇地泊区の困りごとに応じた 企画提案

第3章 宇地泊区の困りごとに応じた企画提案

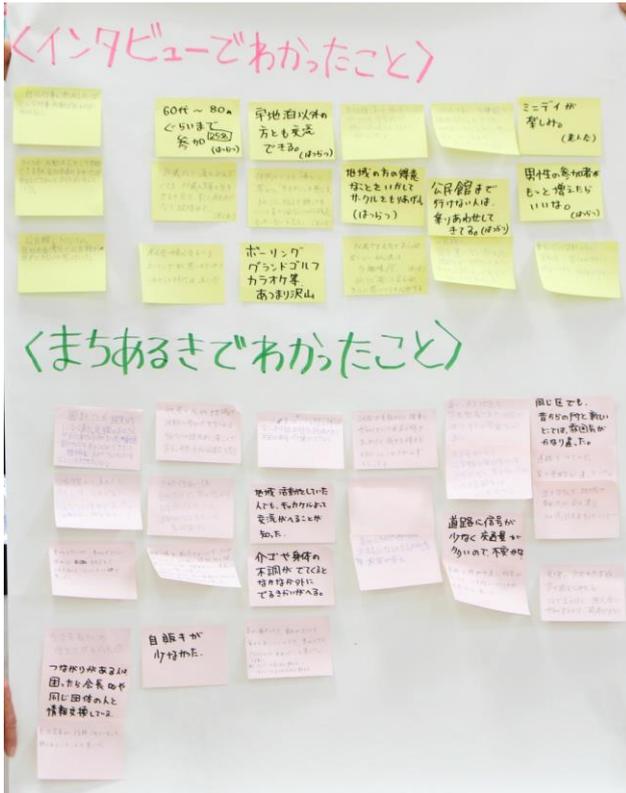
(1) 高齢者と地域の関わり —チームなびい—



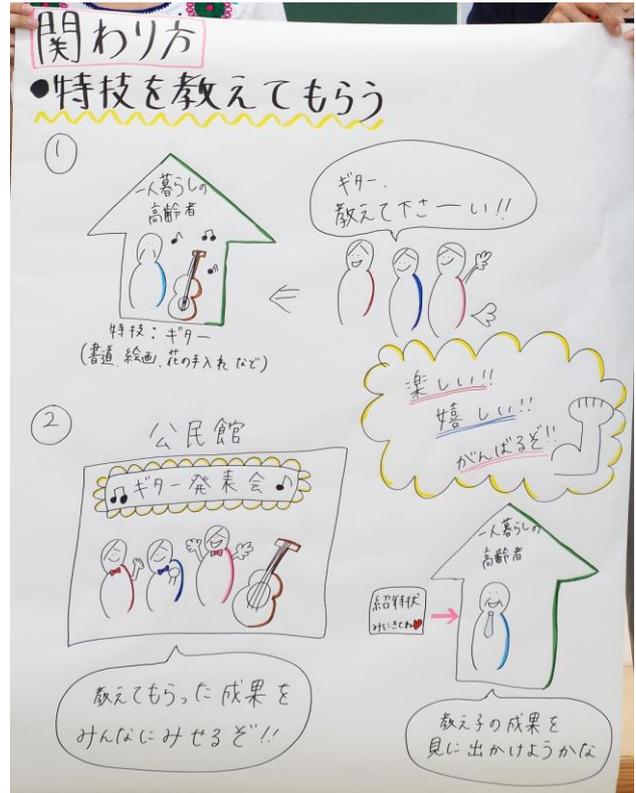
メンバー氏名	所属
富名腰 義政	宇地泊自治会
平良 エミ子	民生委員
エクスタスティン 昇子	アメラジアンスクール・イン・オキナワ
翁長 笑花	宜野湾市社会福祉協議会
大城 幸枝	沖縄県保健医療福祉事業団
石川 千秋	宜野湾市役所

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

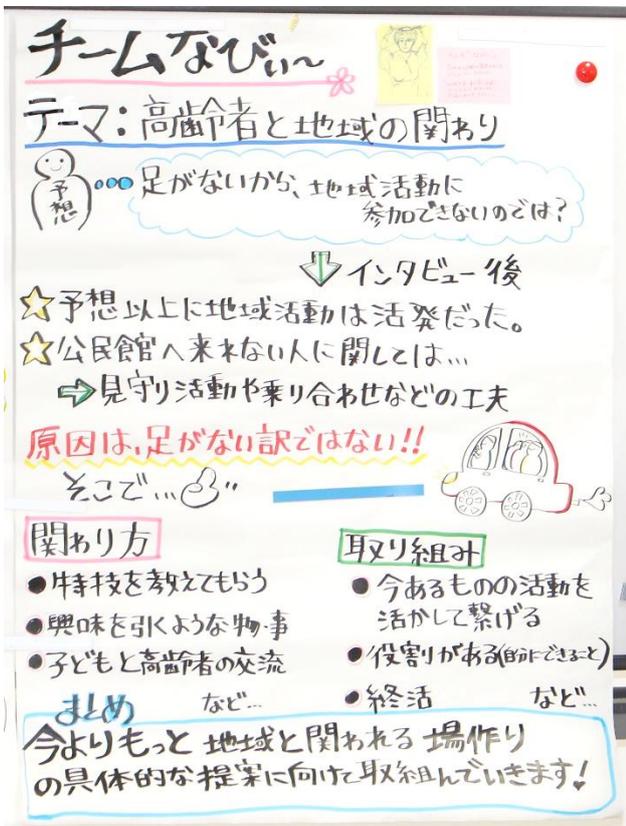
○地域課題 (困りごと)	以前は地域活動に参加していた高齢者が、何かしらのきっかけで参加しなくなった。そのような高齢者が再度地域活動に参加できるようにするために、どのような取り組みを行ったらよいか。
○解決方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 高齢者のお宅で趣味や特技を学び、発表会を行う ② 「自由参加型の場所作り」 誰でもいつでも手入れができる花壇作り＋好きな言葉や詩を花壇に飾る ③ 終活セミナーの実施 目的：関わる・巻き込む「きっかけ」作り (現在行っている活動の【幅】を、浅く・少しずつ広げる)
○実現する道のり・プロセス	<ol style="list-style-type: none"> ① 地区の高齢者の把握・見守り体制の構築のためのマップ作り 地区マップを作成する。そのマップにミニデイ活動の声かけや、送迎や見守り活動の際に、地域活動参加に遠慮した高齢者について、その家族や自治会長と情報を共有し、見守り体制を強化する。特技や趣味も書き込む。 ② 花植えと清掃用具・看板設置 花壇に花を植え、誰でもいつでも花壇の手入れが行えるよう、周辺に手入れ用具を設置する。また、好きな言葉や俳句などを板に書き、花壇近くに設置するなど、間接的に地域活動に関わり、地域の一員、地域に貢献できていると感じる。 ③ 終活セミナーの実施 目的は、「余生への不安」などによって生じる意気消沈を予防し、安心した人生の計画や専門家からのアドバイスを受け、生前整理のきっかけ作りを行う。また、地域の人々も配偶者を亡くされた方への接し方や言葉かけ方法を学ぶ。



インタビュー、まちあるきから得られたこと



中間発表での作成資料



中間発表での作成資料



最終発表の様子

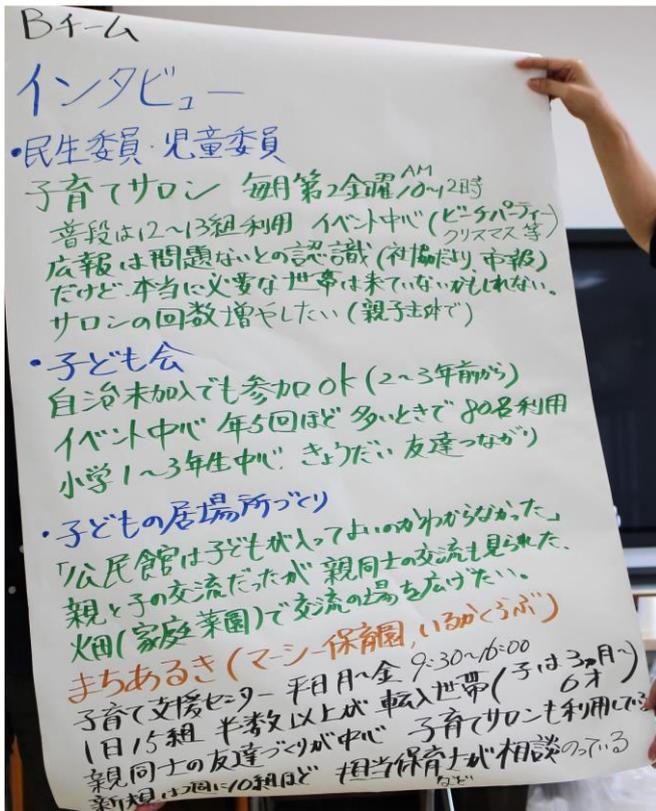
(2) 子育てサロンを地域づくりの起爆剤に！ ―チーム・それでも人しか愛せない―



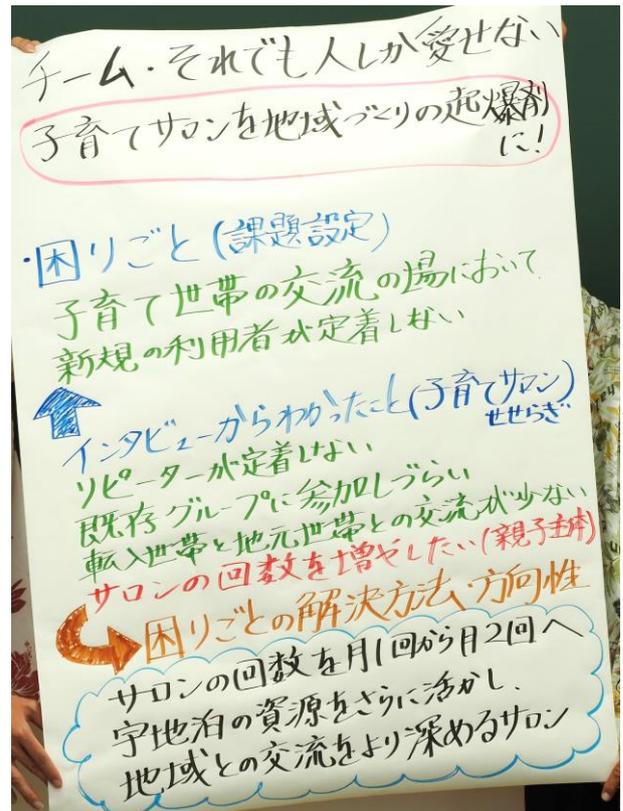
メンバー氏名	所属
石川 寛敏	宜野湾市役所 生活福祉課
我如古 隆	プール管理員
安里 ひなの	琉球大学
大城 周子	大謝名団地自治会

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	宇地泊区で実施している子育てサロン(せせらぎ)を運営している民生委員からは「月1回の実施だが、親子主体で月2回目の実施ができれば」との考えを伺った。利用者は「親同士や、子にとっての親以外の大人(地域の方)との交流」を求めて子育てサロンへ訪れていることがわかった。このことから、宇地泊区の地域課題(困りごと)を「家庭内保育をしている世帯が地域で楽しめる場をより求めている」と設定した。
○解決方法	「子育てサロンを月2回実施し、親子がより主体的に楽しめるよう工夫する」 目的：子育てサロンのさらなる充実を図り、親子が主体的に活動することで、より多くの社会参加経験を得て、友達づくりや地域との関係性の構築に寄与する。 月2回目の運営方法のポイント ・親に「ちょっと手伝ってくれない？」と声かけをすることによって主体的に動いてもらえるような環境づくりを行う。 ・地域とのつながりをつくるために、お手伝いは地域の人や団体にお願いする。
○実現する道のり・プロセス	①民生委員及び社協でスタッフ人員等を相談する。 ②民生委員は各区1人ずつ交代で参加。社協職員も1人参加。 ③自治会と相談する(場所やボランティア人員の確保等)。 ④可能であれば、市の生涯学習課や市立図書館、他サロンのノウハウや人脈を紹介してもらい、内容の充実を図る。 ⑤転入世帯にあっては市民課や児童家庭課等で手続きを行う際に子育てサロンのチラシ配布等行ってもらおう。また、母子保健推進員から「こんにちは赤ちゃん訪問」を通じて、子育てサロン宣伝を強化してもらおう。 ⑥サロン利用者のニーズを把握し(おしゃべりを聞き逃さない、アンケートをお願いする等)、利用者中心で活動していけるよう少しずつ働きかけていく。



インタビュー、まちあるきから得られたこと



中間発表での作成資料



最終発表の様子

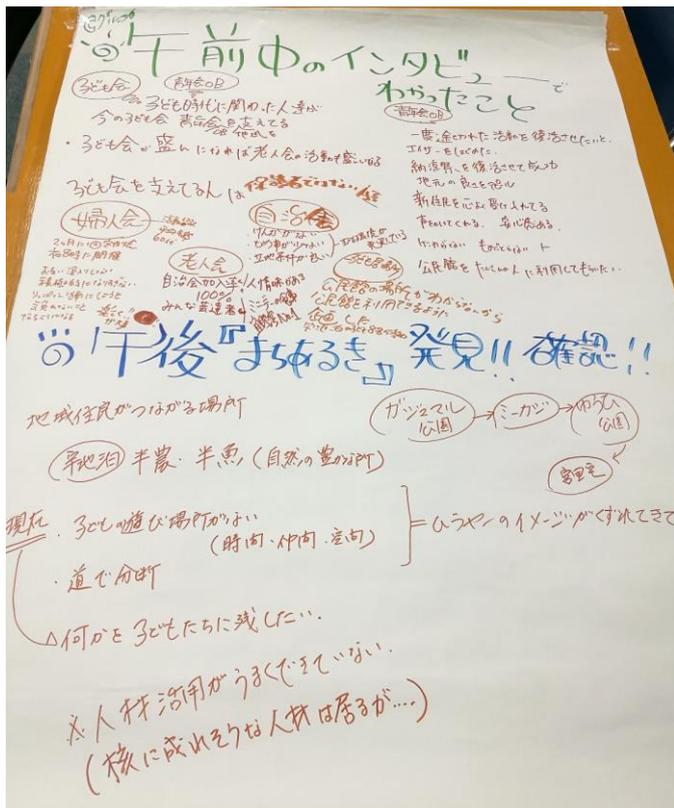
(3) 料理で繋げる全世代・地域交流の懸け橋 —オールジェネレーション—



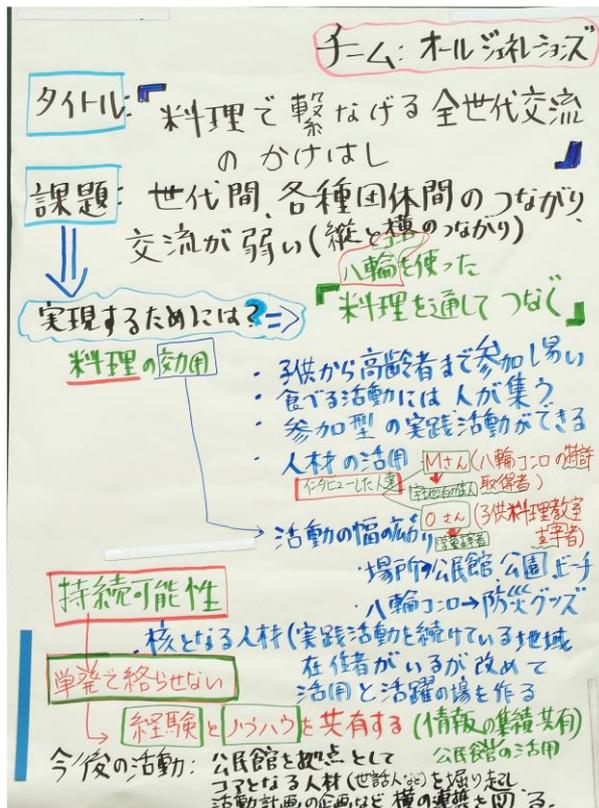
メンバー氏名	所属
前田 真顕	宜野湾市スポーツ推進委員
眞志喜 初枝	大謝名区自治会 書記
平良 奈々	新川自治体 地域福祉協力員
石垣 杉子	母子推進員、文化財ガイドの会
上江洲 慶子	文化協会
宮里 央子	宜野湾市役所 介護長寿課

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	地域活動を行う住民同士のまとまりは強いが外からは関わりづらい。 人と人の繋がりが弱いのではないかと？
○解決方法	開かれた公民館を実現するために気軽に参加できるイベントを実施する。
○実現する道のり・プロセス	料理をキーワードにイベントを開催する。 なぜ？料理なのか・・・ <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで気軽に参加しやすい ・食べる活動には人が集まる ・参加型の実践的な活動ができる ・料理を活用したイベントをすぐに開催できる人材がいる。 ・アイデアの幅が広がりやすい <p>持続可能な活動を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> → 核となる人材を掘り起こす。 → ノウハウや経験を持った人材を見つけ、活動を広げる ・公民館を活動の拠点にする <ul style="list-style-type: none"> → 情報の発信 → 活動計画の企画など話し合いの場をつくり横の連携を図る



インタビュー、まちあるきから得られたこと



中間発表での作成資料



中間発表での作成資料

(4) 新しく移り住んだ子育て世代が地域とつながるには…？

—ぎのわんキャンディーズ—



メンバー氏名	所属
長濱 美津枝	大謝名区民生・児童委員
島袋 盛子	商工会女性部、人権擁護委員、 市民協働推進員
田中 陽子	マリン支援センター

【企画概要】（企画書を基に事務局が作成）

○地域課題 （困りごと）	元々昔からこの地区に住んでいる方は、自治会や子供会などの活動を活発に行っているが、新しく移住した方はその活動をあまり知らないのではないか。小さい子供を抱えて、相談できる人がいなくて困っていないだろうか。交流を望んでいても、どうやって交流していいかわからないのではないか。
○解決方法	<p>① 情報発信の方法</p> <p>地域の活動やイベントなどの情報をブログやSNSで発信する。街の掲示板が少ないので、スーパーやバス停などにチラシなどを掲示する。</p> <p>② 最初の転入時に情報を知らせる</p> <p>自治会で魅力的な街の情報チラシを作成して、市役所に転入の届け出をする時に、市民課で配布する。また、不動産会社とも連携をとり、情報の収集を行う。</p> <p>③ 魅力ある公民館作り</p> <p>公民館に遊具や絵本などを置いて、誰でも気軽に立ち寄れる場所にする。暑い沖縄では外の公園で遊ばせるのが難しいので、涼しい場所で遊ばせ、母親同士の交流の場ともなる。</p>
○実現する道のり・プロセス	<p><u>自治会の会議で話し合う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブログやSNSのページ、チラシ作成方法や人材の確保、勉強会の開催 ・予算等の環境設備を関係各所（市や自治会）へ提案PR <p><u>地域の人材の活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材等へPR。パソコン操作などが得意な方を募る。 ・コミュニティーFMで募集する。 <p><u>公民館の利用方法をPRする</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所や使用料などをわかりやすく掲示する。



ぎのわん
キャンディーズ
女性3名で
こゝまで来ました♡

地域の情報は
いき届いてる?
子育て世代は
困ってないか?
知ってる?

自治会活動
地域の行事
交流場所
公民館や公園

(まち歩き)
単身者
若い方多い
核家族

新しく移り住んだ
子育て世代

「テーマ」
新しく移り住んだ
子育て世代が地域と
つながるためには...?

スーパー
個包装の惣菜
が多い
公園
日陰ゆい
遊具
利用者が少ない
アパトマンション
オートロック入れない
新しいきれいな保育園

集まる
知る
知らない
温度差
活動する団体
住民
インタビュー

テーマの理由
・宇地泊地区の利便性
・区画整備が進んでいる
・若い世代の人口増加
自治会加入率は増加していない...

地域の活動は活発
・子供向けの活動
夏休みを中心にエッセ
陸上大会、かにラジオ体操会
・3世代交流芸能祭
新聞紙読みで400名集まった

提案1 新しく住むに
情報発信
インターネット
ブログ・SNS
スーパー 掲示板
などのチラシ
市報やHPはあるけど...

提案2 Welcome (いって)
のPR 対印象
最初の転入時に知らせる
自治会(住む)チラシ作成
[市役所] 市民課で配布
[不動産] 情報提供 自治会
の情報

効果
最初の転入時に
お知らせすると
いざ困った時、必要などに
役に立つ!!!
子育て期 **高齢期**

中心にある
公民館に
いかに人を
集めるか?
情報発信

提案3
魅力ある公民館づくり
・遊具や絵本の充実
・入りやすいふんいきづくり
・掲示板を増やす
バス停やスーパーなどへの
掲示の検討はいいか?>

中間発表での発表資料

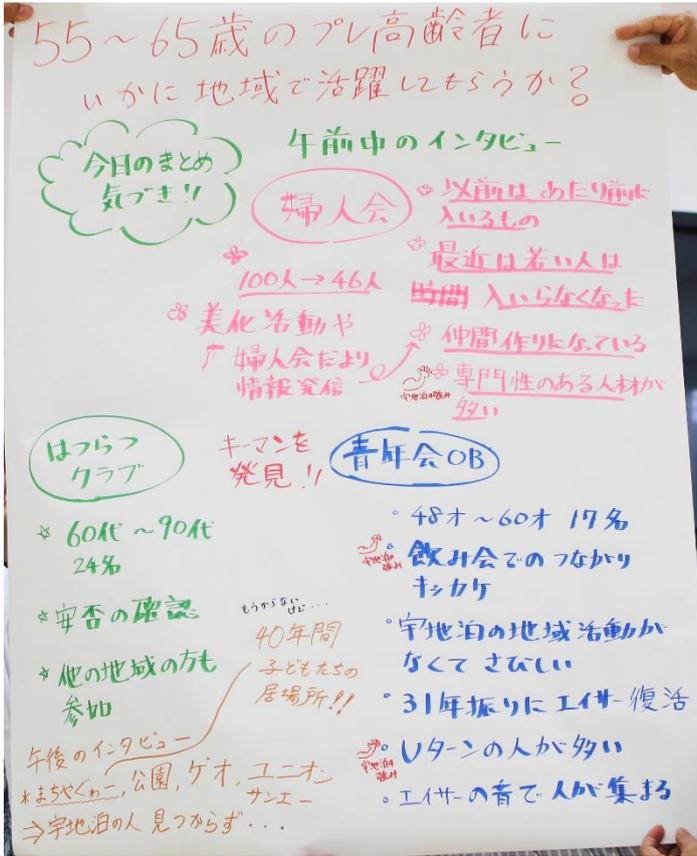
(5) イケおじが宇地泊を熱くする ―やっぱりねこが好き―



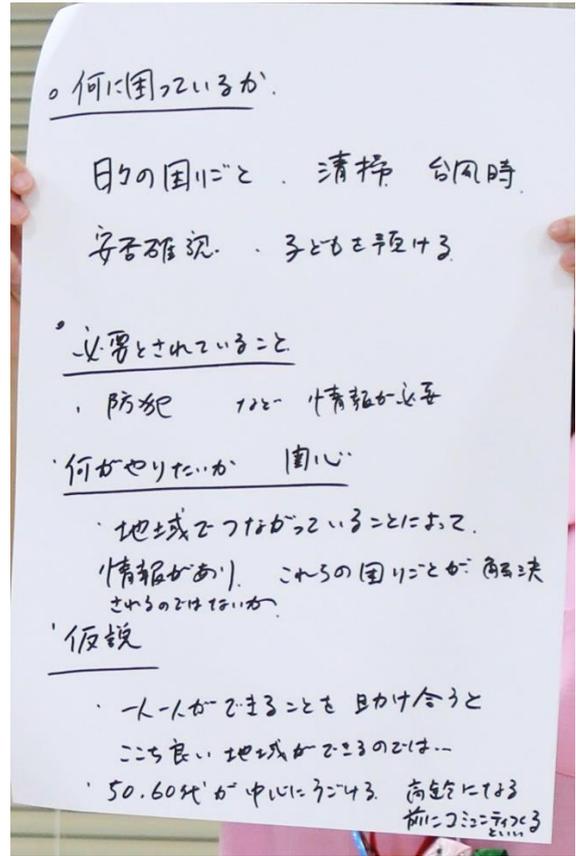
メンバー氏名	所属
屋宮 隆道	湧く沸く未来塾
清水 恭平	アメラジアンスクール・イン・オキナワ
野村 貞	
百次 由美子	宜野湾市地域生活支援センターふれあい
津嘉山 由美子	宜野湾市商工会女性部
西原 真紀子	宜野湾市商工会

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	<p>高齢者の地域活動への参加は大きな負担であることを考慮し、高齢者マイナス10歳の年齢層(「プレ高齢者」とする)を対象に、以下の団体代表者にインタビューを行った。</p> <p>《青年会OB》(メンバー:48~60歳の男性17名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館のこけら落としの納涼祭で31年ぶりにエイサーを復活 ・エイサーは好評で、自治会長から次年度の披露を依頼される <p>《婦人会》メンバー:女性40名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美化活動を行い、その様子を広報誌で報告 ・新規メンバーを受け入れられる体制をとっている <p>以上のインタビューから、男女ともに、プレ高齢者層に一部重なるメンバーを含む団体が宇地泊地区を拠点とする活動を行っていたことがわかった。そこで、「すでにあるこれらの宇地泊の活動へ、いかに参加者を増やすか」と課題設定した。</p>
○解決方法	<ul style="list-style-type: none"> ・青年会OBのエイサーを軸とした、アクション・活動を提案 ・参加にはプレ高齢者男性を含む様々な年齢層の想定が可能
○実現する道のり・プロセス	<p>《提案1》 エイサーの毎年開催with屋台 二年に一度の納涼祭、屋台は親子連れや若い人にも人気</p> <p>《提案2》 三世代交流会でエイサー仲間あつめ 子どもたち、母親にも参加希望者がいるかも</p> <p>《提案3》 子どもチョンダラー&手踊り&地方 子ども、女性、三線教室のメンバーにも参加を依頼、おもしろかわいい子どもチョンダラーが話題に</p>



インタビュー、まちあるきから得られたこと



取り組みたい課題設定



グループでの話し合いの様子

<モデル地区の自治会長としてみた地域づくり塾>



宇地泊区自治会
富名腰義政 会長

「ぎのわん地域づくり塾」のモデル地区の受け入れ前、当公民館では不安がありましたが、開講前の打ち合わせで宮道先生の説明を聞いて、その不安が消えました。

地域においては、諸問題、個人的な不安、悩み等があります。それを、皆で考え、解決策を見出していくのが自治会行事、活動において役に立つ事を学習しました。また、塾生の中から新規自治会加入者が現れました。将来、自治会活動のリーダー的存在になって欲しいです。

<講師からみた地域づくり塾>



まちなか研究所わくわく
事務局長
宮道喜一 氏

今期も、地域の課題に向き合い、その解決策だけでなく、実現のためのプロセスを考え、学び合いました。地域の課題解決のプロセスへの参加・参画が地域づくりの人材を育てていくことにつながります。本塾はそのプロセスを体感するものとなっています。

市内外の人や資源をつなぎながら宜野湾市の協働の地域づくりを進めていきましょう。

第4章

塾生アンケートまとめ

第4章 塾生アンケートまとめ

(1) アンケート概要

- 調査方法：ぎのわん地域づくり塾の修了式後、塾生にアンケート用紙を配布して回答を得た。当日、回答を頂けなかった方には、その後に、アンケート用紙をいただいた。
- 回収結果：第2期塾生25名、回答数21名、回収率84%
修了した塾生25名のうち、21名の方にアンケートをご回答いただいた。回答者の年代は下記表のように幅広い年代の方にご回答いただいた。

表 アンケート回答者の年代

年代	70代	60代	50代	40代	30代	20代
人数(名)	1	6	5	3	4	2

(2) 各設問項目の結果

設問1) 2) については、5段階評価でご回答頂き、その他の設問は自由記入で回答いただいた。その結果について以下にまとめた。自由記入については原文のまま記している。

設問1) 開催期間、時期について

今回の7月～10月の3カ月間の開催期間（台風の影響により10月28日から11月23日に延期）について、5段階評価をいただいた結果、「満足」、「やや満足」が共に47.6%となり満足度は高いといえる。「開催時期はいつがいいですか？」との問いには、今期と同じ：17名、別の期間、2名、無回答：2名であった。別の期間と答えた方は、7月～11月（台風の延期で準備ができた。中間から最終発表までの長い期間があるといい）、5月～7月（期間が長いと感じた。仕事の都度、時間を作るのに苦労した。）との回答があった。

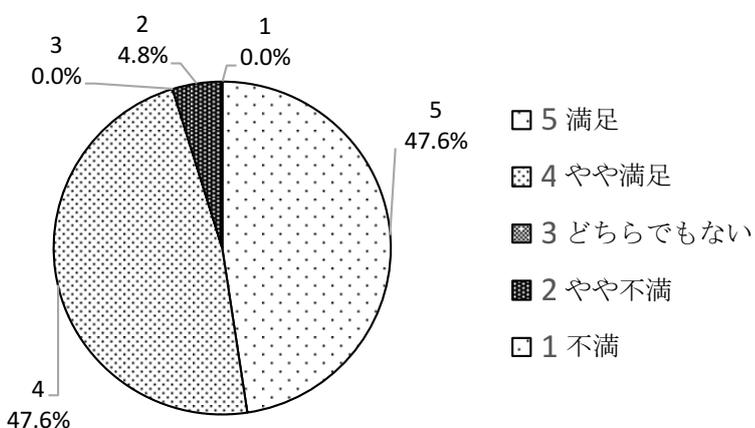


図 開催期間の評価（5段階評価）

表 開催時期はいつがいいですか？

開催時期	人数(名)
今期と同じ7～10月	17
別の期間	2

設問 2) 講義について

講義の回数（全 7 回＋スキルアップ講座）、全体的な講義内容、1 講義の時間設定（150 分目安）に対する評価を 5 段階評価でいただいた。満足と回答した方が最も多く、どちらでもないと回答した方が、講義内容で 1 名、講義時間で 2 名の方がいた。

また、各講義の満足度に関しては、満足、やや満足と回答いただいた方が大多数だが、第 4 回で 1 名、第 5 回のフィールドワークで 2 名の方がやや不満と回答している。その方の記述として、「インタビューの時間がもう少し欲しかった。」との記載がなされている。

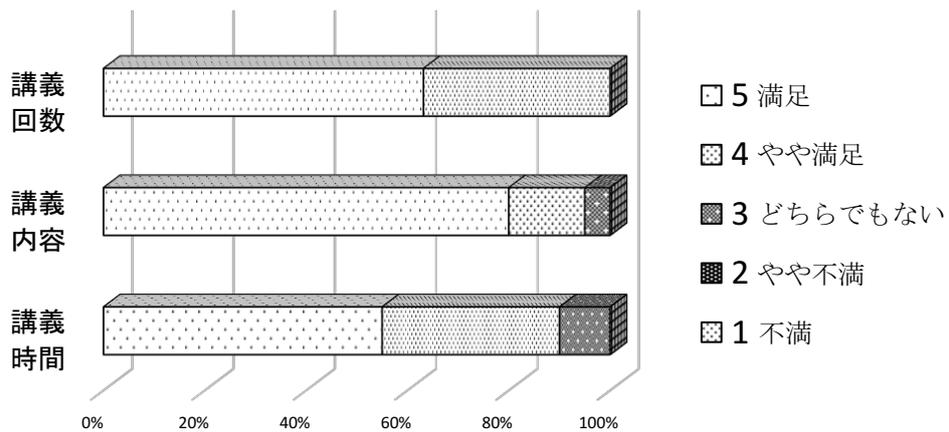


図 講義の設定に関する評価 (5 段階評価)

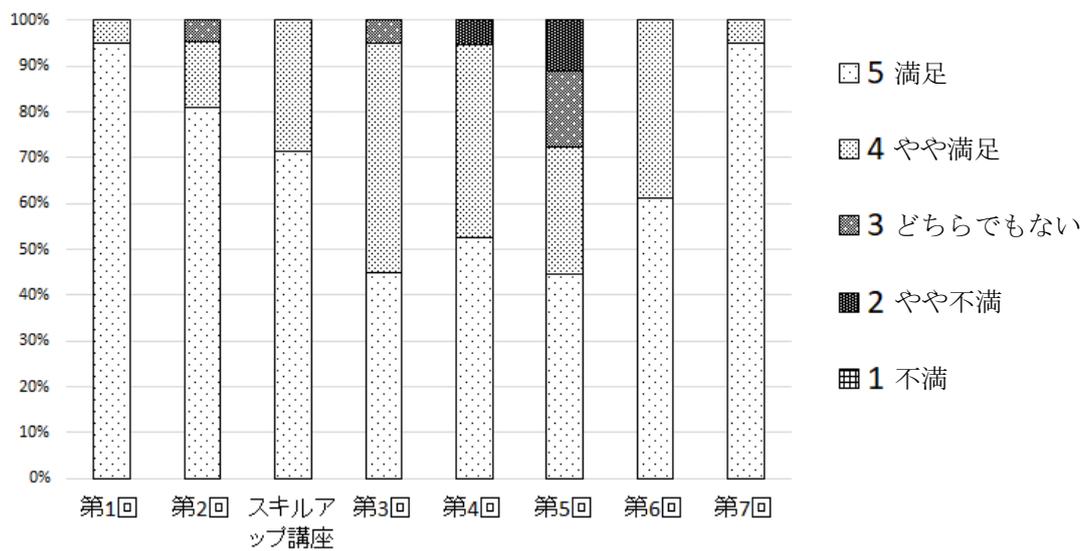


図 各講義の満足度 (5 段階評価)

表 各講義の満足度 (平均) (5 段階評価)

講義	第 1 回	第 2 回	スキルアップ講座	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回
満足度 (平均)	4.95	4.76	4.71	4.40	4.42	4.06	4.61	4.95

設問3) 会場（宇地泊区公民館、沖縄国際大学、宜野湾市社会福祉協議会）について感じたことがあればご記入ください。（位置や交通の便など）

○良い点

- ・喜友名の自宅からの会場として、遠いとは思わない。
- ・会場の位置は良かった。
- ・課題地域である公民館で講義があつてよかった。
- ・講義以外の日でも公民館等利用もさせてもらえて使いやすく有難かったです。”
- ・全て良かったです。

- ・どちらも大変良かった。
- ・会場の場所はとても良かったです。
- ・宜野湾市民としては行きやすい場所で良かったです。
- ・利便性は素晴らしかった。

○改善点

- ・場所が変わるのでとまどいました。
- ・公民館駐車場スペースが小さい

設問4) グループで企画を考えていくなかで、今回の提供講義以外で必要と感じた内容や改善点はありますか？

○要望

- ・インタビューの時間がもう少し欲しかった。
- ・参加人数が少なくなって、話し合いの展開が弱くなったときは少し苦しかった。何か良い対応策があればと思います。また、もっとフィールドワークに力を入れてもよかったかなと思うので、塾生に積極的にすすめてもらってもよいのではないのでしょうか。
- ・ワークショップが多かったので講師の講話も入れてほしい。
- ・中間発表と最終発表の間に、自主ゼミではなく、講義として入れてほしい。（グループメンバーでの日程調整やふり返りのできる時間が

ほしい)

○提案

- ・人数が少ない場合の対応は考えた方がいいと思います。
- ・もう少しインタビューや町歩きの時間や回数を講義内で増やしていいかも。

○感想

- ・発表時間が短すぎで非常に残念でした。
- ・私がフィールドワークに参加できていないのでもっとインタビューしてみたいと思いました。
- ・データ資料は必要だと思いました。

設問5) スキルアップ講座で得たファシリテーションのスキルを、グループ活動に活用することができましたか。また、グループでの話し合いをより良くするために必要だと感じたことはありますか。

○活用できた

- ・できたと思います。が、忘れることなく、フィードバック（復習）し、これからの話し合いに活かしてゆきたい。

- ・活用ができた。スキルアップ講座もグループで行う方が良いかと思います。
- ・ファシリテーションのスキルが役に立ちました。

- ・活用できた。自己紹介ゲームなど取り入れております。
- ・いろいろな意見を出し合い、尊重しながら意見がまとめていけたのはスキルアップ講座のおかげだと思います。
- ・たいへん勉強になり、活用できました。
- ・心の声に耳を傾ける大切さをすることで、強い絆による結果が生み出せました。
- ・相手の話に耳を傾ける時間の配分について考えることが必要だと感じました。
- ・はい、ファシリテーションのスキルはグループ活動に活用できたと思います。また、ファシリテーションのスキルアップ講座があると嬉しいです。
- ・櫻井先生の講義を受けて、ファシリテーションのスキルを活用できたと思います。グループでの話し合いをよりよくするために必要な

ことは聴くことだと思います。

- ・ある程度は出来たと思います。
- ・話しを傾聴する。他の人の時間を奪わない。
- ・スキルアップ講座では、話し合いについてみっちり学ぶことができ、講座でもあったように、やはり話し合いの目的と毎回の流れをグループのメンバーと共有することで、スムーズに話し合いができたので、そこは活用することができたのではないかと感じた。

○欠席者

- ・すみません、欠席しました。
- ・スキルアップ講座欠席でしたが、とにかく対話の相手を尊重すること。
- ・参加してません。
- ・残念ながら参加できませんでした。

設問6) ぎのわん地域づくり塾のプログラムを通じて、どのような学びがありましたか。

○新たな繋がりによる学び

- ・市民1人1人の意見、考えがあり、目がパチクリする様な発言(なるほど!)、この様な出会い(市民講座)は素敵ですばらしいと思った。
- ・参加するまで地域づくりや地域での活動はあまり知らなかったもので、様々な活動、年代の方と交流することで良い刺激になりました。
- ・実際に地域で活動されている方の声が聞いたことは良かった。地域のことや、志をもつ方々と知り合えたことは今後の財産になると思います。
- ・様々な視点、思考、主観など。人とのつながりにより得た数と質の大きさ

○新たな視点からの学び

- ・どうしても上からというか、自治会側からの考えになってしまっているのではないかと

う悩みがあり、その視点(悩み)はよい学びになったと思います。

- ・思い込みや当事者意識が強すぎると、周りが見えなくなるので客観的に物事をみる大切さを学びました。
- ・自分の思い込みをせず、積極的な活動の大切さを学びました。

○課題解決のスキル

- ・問題や課題を見つけ出すポイントも以前より早くなっている自分に気づいたり、前よりは質問上手になっています(笑)

○ワークによる学び

- ・ワークショップのやり方が参考になりました。
- ・初対面の人同士のコミュニケーションには、アイスブレイクがかなり効果的であることがよくわかった。

○話し合いからの学び

- ・グループワークでは議論が白熱した後の収束からうまれた結論がすばらしかったです。

○地域づくりに対する学び

- ・フィールドワークやグループワークから現場の声を吸い上げることの大切さやプロセスの重要性について学びました。
- ・プロセスが大事だということを知ることができました。
- ・地域活動において話し合いの場をもつことが大切である。一人の意見よりは、10人以上の意見がより前向きな意見が出てくる。
- ・話し合いのプロセスを体験できました。
- ・地域づくりは思い込みではだめだと感じました。

○地域に対する気づき

- ・地域の大切さ、地域の課題が社会の課題につながっていること。
- ・住んでいる宇地泊、真志喜地区に誇りと自信を持つことができた。コンベンション・エリアとしての魅力だけではなく、地域住民の開かれた人情の深さに改めて感激しています。

○コーディネーターとしての学び

- ・地域を盛り上げたいとの思いが強くあり、やらなければとの気持ちがカラマワリしていた時に地域づくり塾に参加することになり、コーディネーターの役割を意識する重要性を学びました。

設問7) 宇地泊区というフィールドから得たこと

○地域の特性

- ・地理的現法がわかった。
- ・自分の思い込みと地域の実情は違うというこ

- ・コーディネーターの役割(つなぎ役)の大切さを学ぶことができました。課題解決の主体になることではないということ。また桜井先生の思い込んでいないか?という問いかけが調べていくうちに新しい発見となりました。
- ・コーディネーターは解決する人ではなく、つなげる人。すごく勉強になりました。

○グループワークでの学び

- ・異なる世代・職種・背景の人と協力するための工夫と楽しさ。
- ・人の意見を尊重し、自分を表現すること。
- ・時間をかけることで見えてくることがある。ということ。今回、Eグループのメンバーの方と企画づくりを行ったが、回を重ねるごとに、お互いの考え、思いなど共有することができた。各自が持つ背景/知識/経験を共有し、信頼関係がつけられていった。これが1,2回の集まりだったら、浅い関係にとどまっていただろう。
- ・様々な経験や立場の人たちが集まり、1つのテーマを決めて、その内容を深めていく作業は、簡単ではなかったけど、お互いの意見を尊重し合ったり、それぞれの持っている情報、得意なこと(情報収集、パソコン、絵)などを活かし役割分担を行い発表までいけたので、話し合うスキルや情報を整理する難しさなど学ぶことができた。

○その他の学び

- ・色々なことを学ぶことができました。

とを学ぶことができました。特に普段活動している地域とは雰囲気は全く違うので。

- ・新しいまちであること、宜野湾の中でも、まち

によって特色があると感じた。

- ・県外出身者が多く移り住んでいるということで、私自身の課題とも重なるところがありました。

○地域の共通点

- ・どこの自治会も同じような悩み(課題)をかかえているとの思いがありました。

○宇地泊区の良い点

- ・宇地泊の公民館がすばらしかった。市民に開かれた開放感を与えています。自治会長の人柄がみんなをひきつけていると思うと、宇地泊が一番の気分です。
- ・地域の人々の、宇地泊区への思い、地域活動に関する思い。
- ・宜野湾市の中で今、生きのある若い人達が多い地区だと思いました。

○自分の住む地域への気づき

- ・自分の住んでいる地域を知りたいと思いました。

○体験したことによる学び

- ・生の声、地域の人々の生活の様子など、リアルな

場面を実感できて地域づくりには、一人ひとりのリズムがあることを大切にしたいと思った。

- ・地域課題を十把一絡げにせず、地域の特徴にしっかり目を向けることが大切。高齢化率が低く、子どもが多い宇地泊！
- ・街歩きをしなければ、生活の実感がわからない。宇地泊のフィールドワークを通して課題解決へのプロセスが見えた気がする。
- ・今回は、自治会長と同じグループだったということもあり、地域の方で生活していく上で抱える悩みや、それをどう向き合っていくかを学ぶことができた。インタビューでは地域の方が、もっと地域を良くしたい、思いがとても伝わってきて、地域活動や自治会活動に関わる人の熱意と、地域で起きている課題を知ることができた。

○地域づくりによる学び

- ・地域づくりに取り組み場合、どうしても魅力あるイベントや行事にとらわれがちですが、そのことの前にプロセス、過程を大事にしていくことで本質が見えてくることを新たに得ました。
- ・若い人の新しい地域づくりの可能性。

設問8) 今後、宜野湾市の地域づくりにどのように関わっていけるとお思いますか。また、コーディネーターとしてどのような活動をしたいですか。

○具体的な活動を考えている方

- ・喜友名の地域支え合い活動委員会のメンバーとして、区内住民のよりよい暮らしにつながる様、活かしたい。特に、住民の現法、各行事への参加促進、夢や希望をもてる、描ける地域づくりを考えてます。(絵画ストリート等)
- ・居場所づくりに関わり、コーディネーターとして、地域と活動をつなぐ役割がしたいです。
- ・地域皆様の意見良く聞き、それを自治行事、活

動に取り入れていく努力をする。

- ・宇地泊のはつらつクラブの継続、発展のため、微かながら尽くしていきたい。
- ・公民館などの運営に興味を持ちました。

○積極的に関わりたいと考えている方

- ・色々な話し合いにまず参加してみることだと思います。
- ・今までは「私がやらねば」と思っていたのです

が、今後は参加者の思いや考えている事を引き出しながら話し合っ方向性を決めていきたい。介護予防”生き生きクラブ”の運営が参加者減の課題がある。

- ・地域の要望にできるだけ協力し、答えていきたいと思います。住み良い街づくりを目指して、関わりたいです。
- ・私には、宜野湾市を元気な街、市にしたいという目標があり、健康づくりに少しでもお手伝いできればと考えています。仕事柄、なかなか時間が取れないのですが、少しでも時間を作ってかかわっていただけると夢見ています。

○仕事に活かしながら活動したい方

- ・宜野湾市職員で、生活困窮支援を行っているので、その切り口で、地域づくりへも関わっていければと考えています。
- ・私はコミュニケーション講師として現場に立っているの、何らかの形で地域づくりに関わっていけるかと思ひます。学校現場には人権擁護委員として人権教室、相談など当たっておりますが、いますぐ頭に浮かばずいます。活動は積極的にこれからも地域に関わっていきます。
- ・今回の経験を活かして、自分の行っている仕事の中でも何かヒントとして活用させていただきたいです。また今回出会った方たちとの縁を大切に今後もつながっていただけると思ひます。
- ・もっと、職場の地域に関わって、地域とその他のグループを繋げることができたらなあと感じました。そのために、アンテナをはろうと思ひます。また、子どもと関わる仕事をしているので子ども達と地域を結びつけることができ

たらなあと考えています。

- ・社協で、地域との話合いの場面は多くあるので、今回の塾で学んだことを活かせる所はたくさんあり、その中で、自分の中で学んだことをきちんとおとしこんで、今後スキルアップしていけるように意識していきたいです。

○地元への還元

- ・南風原から参加したので宜野湾は遠いのでなかなか今後参加できないと思ひますが、自分の地域で今回学んだことを活かしていきたいです。
- ・業務に役立てたい。という気持ちではじめた塾ですが、宜野湾市だけではなく地元南風原でもいいこと探しをしながらもっと地域と交流したいと思ひました。CDとして、地域の良いところをさらに発展できるように地域にもっと出て地味にこつこつと積み重ねていきたいと思ひます。
- ・地域に根付いた関わり。
- ・まずは住んでいる公民館で何があるのか知って自分が協力できることは何かを知ることから始めたい。
- ・まずは自分の地元の自治会などに参加をしてゆく事が良いのかな？と思ひます。

○志縁による関わり

- ・地道に、各地区のかたや友人を通して、地域の課題に気づくアンテナを養っていきたい。地域住民でなくとも、志縁を活かし関わる方法もあるということが知れて良かった。
- ・今まで学んだことが少しでも役立てられるよう、同志をみつけ、活動したいと思ひます。

設問9) ぎのわん地域づくり塾を受講しての感想やご意見等をご自由にお書きください。

- ・深く考え込んでしまった自分が恥ずかしい。
- ・様々な人と交流することができてよかったです。皆さんの志に触れることができて、いい勉強になりました。
- ・また、地域や地域づくりについて勉強したのははじめてだったので、新しい考え方を学ぶことができ、目からウロコがたくさんありました。
- ・とても学びの多い講座でした。・気づかされることが多かった。・視点を変えること（思い込みをしない）・人の意見を素直に聞く。
- ・第2期生として今後も1期生の先輩方とも交流を深めたく、一緒に宜野湾市を盛り上げていきましょう！よろしく願いいたします。
- ・櫻井先生の講義がすばらしい。今日も涙をながしながらききました。
- ・自治会と公民館の取り組み方のちがいに、なるほどとおもいました。改善していく必要性を感じました。地域づくりは仲間づくりで、みんなの暮らしを共によくしていきたいと思えます。
- ・本当に学ぶことが多い、充実した4ヵ月でした。知識だけではなく、肌で感じるものも多く、ここで得たことは今後、様々な場面でも活かせると思います。グループメンバー、そして気持ちよく学べるように支えて下さった運営の皆さんには感謝です。
- ・イベントや祭りを企画する事業が地域づくりではないことを知って、何が困っているのかを知りたくなりました。
- ・本当に充実した5ヵ月間でした。関わる人すべてがすごく親切で、私自身大変いやされ幸福な時間を過ごさせていただきました。特にグループの人たち最高！！一期一会... これからも大切にしたいと思います。スタッフの皆様お疲れさまでした。ありがとうございます。私へ。よく頑張った！終了、おめでとう！！
- ・受講するまでは、あまり地域の事に関心がなかったのですが、今自分が住んでいる地区をあらためて考える事ができました。
- ・地域の皆様の健康で住民、地域の拠点として公民館を効率的に開放していく。又、自分だけが良ければいいんじゃないの精神をなくして行きたい。
- ・とても学ぶことが多い塾で、受講中だけではなく、今後につながるの有意義だと思えます。ありがとうございます。
- ・確かに楽しかったとは、一口で言いなれない。大変さ、苦しさがあった5ヵ月でした。個人的な振り返りとしては、今日の塾生が様々な地域活動をなされている方のお話を通じて、地域でいろんなことをしている人がいるのだなあという視点を得ました。良い時間だったと思えます。
- ・色々なことが気づかれ、役に立ちました。
- ・スタッフの皆さん、ご苦労様でした。この年になって、地域づくりの大切さ、難しさを痛感しています。塾生として誇りに思います。
- ・今回の地域づくり塾でも、たくさんの人々とつながることができました。様々な立場の人から色々な話を聞くことができ、私自身の情報量も少し増えたとし、また今後もつながっていけそうなので、参加できてとても良かったと思えます。

第5章

総括

～第2期の評価と今後に向けて～

第5章 総括 ～第2期の評価と今後に向けて～

第2期を開催して感じた、良かった点や課題、次期に向けての改善点等を、運営した事務局同士で共有することを目的に「ぎのわん地域づくり塾 2017 ふりかえりミーティング」を以下の日程で開催した。本章は、ふりかえりミーティングの内容からの良かった点と課題の評価をまとめ、また、第4章に記載した塾生アンケートの内容も合わせて、次期に向けた塾プログラムの改善ポイントを提言することを目的に作成した。

(1) ふりかえりミーティング開催概要とまとめ

○日 時 2017年12月18日(月) 10:00-12:00

○会 場 宇地泊区公民館 1階ホール

○参加者 富名腰義政(宇地泊区自治会)、盛長健(第1期塾生)、
(敬称略) 平田駒子・我如古誉幸(宜野湾市役所)、城間仁・赤嶺舞(宜野湾市社会福祉協議会)、
宮道喜一・賀数邦彦(まちなか研究所わくわく)



○内容のまとめ

◆第2期塾生の特徴

多様な属性で、今まで関わりがなかった塾生の参加を得た	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集段階で沖縄国際大学への掲示や、細やかに郵送等にて告知を行った結果、第2期塾生として30名が受講し、その内25名(女性:19名、男性:6名)が修了した。 ・ 20歳代から70歳代までの多様な年代と民間企業、地域組織、NPO法人、行政など、官民の多様な立場の方の参加を得られた。 ・ これまで事務局としても接点のなかった方の参加を得られた。
塾生の年齢層が高く、女性が多かった	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1期と比較して、塾生の年齢層は全体として高くなった(70代:3名、60代:5名、50代:6名、40代:5名、30代:4名、20代:2名)。 ・ 若い世代と年配の世代間での学び合いが行われていた。 ・ 女性の塾生が多く、男女比のバランスが取れると良かった。
活動経験が豊富な方の参加を得た	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既に地域活動・市民活動に携わっている方が多い印象。活動のためのノウハウをお持ちで、すぐに実行に移せる方が多かったのではないかと。 ・ 一方、自治会や民生委員、地域のボランティアの方の参加もあったが、夏

	を過ぎてから欠席となってしまった。地域のキーマンとなるような方は忙しく、継続した参加が難しかった。
塾生の募集方法を工夫する必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集方法は何か特典を作るなど、もっと工夫をする必要があると感じた。 ・ 募集期間中に「参加できない日もある」とのお問い合わせがあった。受講対象条件として、「全講座の受講できる方」については見直すことも検討してよいのではないか。 ・ 公開講座で 54 名の参加者が得られたことは良かった。しかし、それ以外に若者向けに周知できる手段があると良いのではないか。

◆塾運営の全体を通して

受講しやすい開催期間と講義日について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月～10月の開催時期は、忙しい時期では無いため、良かったと感じた。 ・ 「月曜日の講義は参加が厳しかった」との受講者の声があった。
複数会場の利点と欠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄国際大学との共催により、宇地泊区公民館と大学の2ヶ所の会場で講義を行った。毎回の会場を確認する必要があったことから、会場を間違えるといった混乱が一部であった。しかし、大学が会場となることで、マンネリ化を防ぐ要因にもなっていた。
継続的に受講いただくための欠席者への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回講義以降に来なくなる方が6名いた。欠席者に講義内容を伝えるなどのフォローなど、欠席してもまた参加しやすい雰囲気づくりをすべきだった。
ファシリテーションの実践の場となった	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキルアップ講座で学んだファシリテーションのスキルについて、ぎのわん地域づくり塾でのグループディスカッションなどで実践する場となった。

◆塾生の自主的なフィールドワークを進めるために

日中は暑く人がいない。時間帯の検討は必要	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワークの時間帯(13時～14時)は日中で暑く、まちなかを歩いている住民が少なかった。フィールドワーク終了後の夕方にまちなかを歩くと、公園でゲートボールをしている方などがいた。フィールドワークの時間帯は検討する必要がある。
講義ではなく、自主活動の位置づけも検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワークの回数や時間が少なく感じた。増やす方法を検討したい。 ・ フィールドワークを講義としてではなく、各グループの自主活動に位置づけても良いのではないか。その為には、モデル地区の地域活動一覧の提示や地域の各団体への事前の協力依頼が必要だが、塾生の主体性を崩さない程度の事務局の関与が重要となる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワークの際に、事務局がいることで安心して宇地泊区を回ることができたとの声があった。 ・ 他の自治会を見に行く方がいた。モデル地区と他の自治会を比較するのは良いことであると感じた。

◆企画を作成するグループの運営方法

事務局でグループメンバーを決めたことにより、異	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今期は、メンバーの属性に偏りが出ないように事務局によってグループ分けを行ったが、「グループが決めてられて嫌だった」との声もあった。グループ
-------------------------	---

なる属性の話し合いが学びとなった	によって、うまく機能するか懸念する場面もあったが、実際の地域でも人は選べない。意見がぶつかり合うことは良い経験になる。また、グループメンバーの属性がばらけたことによって、それぞれの視点からの意見が出ていた。その為、最終的には、「このグループで良かった」との声もあった。
各グループを担当制にしたことにより、グループの進行状況を把握できた	<ul style="list-style-type: none"> 各グループに事務局で担当を配置したことにより、進行状況を把握できた。また必要な場面で、フォロー・介入することができた。 グループの主体性を損なわないような関わり方に迷うこともあった。関わり方の基準があると良いが、グループによって関わり方が変わってくる。事務局として中間支援的関わり方のトレーニングにもなった。

◆台風による延期の影響

台風による延期期間を有効に活用	・ A グループのみが、台風によって延びた期間に 1~2 回集まり、企画発表の準備をしていた。
-----------------	---

◆修了後における塾生との関わり

終了後の活動支援とモデル地区への継続した関わり	<ul style="list-style-type: none"> 修了生が取りくむ地域活動や新しいチャレンジについての支援を検討したい。 櫻井先生の講演の影響で、宇地泊区の住民の方から、住民同士でおしゃべりできる場が欲しいとの要望が出てきている。ぎのわん地域づくり塾の延長線上として修了生が関われるよう呼びかけを行っていきたい。
-------------------------	--

(2) 塾生アンケートに記載にされていた要望一覧

本報告書の第4章に掲載した塾生アンケートの記載内容から、塾の運営に関わる提案や要望を以下にまとめた。

<ul style="list-style-type: none"> もっとフィールドワークに力を入れてもよかったかなと思うので、塾生に積極的にすすめてもらってもよいのではないだろうか。 もう少しインタビューや町歩きの時間や回数を講義内で増やしていいかも。 参加人数が少なくなって、話し合いの展開が弱くなったときは少し苦しかった。何か良い対応策があればと思います。 データ資料は必要だと思いました。 発表時間が短すぎで非常に残念でした。 スキルアップ講座もグループで行う方が良いかと思います。 ワークショップが多かったので講師の講話も入れてほしい。 中間発表と最終発表の間に、自主ゼミではなく、講義として入れてほしい。(グループメンバーでの日程調整やふり返りのできる時間がほしい)
--

(3) 次年度に向けての塾プログラム改善ポイントの提案

本章 (2) (3) の記載内容を基に、次年度に向けた改善案を以下にまとめた。

○20～30 代の世代や男性の参加を得るための広報手段等の検討

- ・ 今年度は大学を会場とするなど、大学生を巻き込む工夫をしたが、20～30 代や男性の参加が少なく、その世代の視点が得られなかった。大学生や子育て世代、20～30 代の働き盛りには、告知が届いていなかったのか、または、参加しやすいプログラムでないのかを検証し、多様な塾生 40 名の参加が得られるよう検討する。

○塾生の自主的なフィールドワークを進めるための環境整備

- ・ 塾の修了後もコーディネーターとして積極的に活動いただけるようになるには、塾の中での自主的なフィールドワークの経験が必要だと考えられる。その為、塾生が自主的にモデル地区を調査しやすいように、地域の各団体への協力依頼や、講義中のインタビューに来ていただいた方々と塾生が、協力体制を取れるような工夫を検討する。

○企画を作成するグループの運営方法

【塾生の想いを大切にしながら、多様な視点を得られるグループ編成への工夫】

- ・ 異なる分野や世代の方々との話し合いから新たな視点を得ながら学び合い、互いの得意分野を活かす経験が重要である。塾生の「地域課題のテーマへの関心」と「塾生自身の属性」の両方のバランスがとれるグループ編成の工夫を検討する。そのことにより、自らの関心事に近い企画を行い、かつ、自身とは異なる属性、年代の方々とグループを組めることで、積極的な参加も期待できる。

【事務局が対応すべき各グループへの支援体制】

- ・ 各グループの進行状況を把握し、その都度フォローできるように、関わり方の指針を作成する。また、グループの人数が少ない時などは修了生が参加するなどの、グループへの支援方法を検討する。
- ・ グループで企画をつくり込むために必要な人口データ等のモデル地区の統計資料を提供できる体制をとる。

○塾の講義回数

- ・ 「講師の講話も入れてほしい」などの要望も塾生からあり、講義回数を増やせないか検討する。

平成 29 年度 地域コーディネーター養成講座

ぎのわん地域づくり塾 2017 報告書

平成 30 年 (2018 年) 3 月

発 行 宜野湾市 企画部 市民協働推進課
社会福祉法人 宜野湾市社会福祉協議会

作成・編集 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく
〒902-0065 沖縄県那覇市壺屋 1 丁目 7-5
TEL : 098-861-1469